



発見！竹生島

活動のねらい

- 竹生島の木々の様子や斜面の様子を「うみのこ」から観察し、竹生島の自然と人間との共生について考える。

【時期】 通年

【場所】 甲板

【時間】 約15分

【準備物】 ●竹生島の写真 ●双眼鏡

主な活動の流れ

事前学習

- 竹生島について調べる。

- ・歴史遺産が多く残っている島、観光客が訪れる島、「深緑竹生島の沈影」として昔から人々に親しまれている島。



【地理】 滋賀県長浜市の湖岸から約6Kmに位置する。周囲2Km、面積0.14Km²、最高標高197.6m。

【地形】 花崗岩でできていて。水面から塔状に浮かび立ち、狭い土地に樹木の多い島の形が楽器の「笙(しょう)」に似ていると言われている。

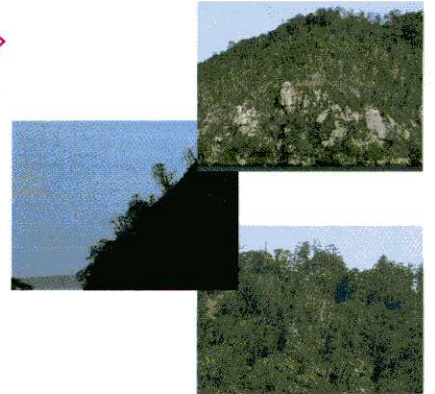
【歴史】 島の地名は「神を斎(いつ)く島」に由来する。古くから神社と寺が習合。「深緑竹生島の沈影」は琵琶湖八景の一つ。平家物語等でも美しい島とうたわれている。

【自然】 温暖で降雨にも恵まれており、湖中において水流があるので冬でも暖かい。そのため温暖性の植物が全島を包む。また、暖地植物の下に多雪気候を示す植物が林床を伴うという特徴がある。

フロートイングスクール

竹生島の姿をびわ湖から見学しよう

- ① 「うみのこ」から竹生島を見て、場所によって木々や斜面の様子に違いがあることに気づく。
- ② 展望放送を聞いて、木々の立ち枯れとカワウの関係、カワウと人間との関係を知る。また、竹生島やそこに生息する木々を守る取り組みを知る。
- ③ 竹生島とカワウと人間がうまく共存していく方法について考える。



- 竹生島の自然と人間との共生について話し合う。

- ・友だちと意見を交流することで自分の考えを広めたり、深めたり、確かめたりする。
- ・人と自然が共存していくためには多面的な視野をもち、みんなで知恵を出し合うことが大切であることに気づく。

事後学習

【指導のポイント】

環境問題を考えるとき、短絡的に結論を求めるのではなく、多方面からその要因をじっくりと探り、解決に向けたよりよい方法を検討していくことは重要である。

参考として、以下にカワウと環境との関係について一部記述する。

- ・カワウは、水中の栄養物を魚という形で取り出すので、結果的に水中の富栄養化を抑制している。
- ・カワウは、排泄を通じて土壌に栄養物をもたらす。
- ・カワウの営巣は、短期的には糞や枝折りで森林を枯らす、長期的には土壌を肥沃にし森林を育てる。
- ・カワウの営巣地がごく限られた緑地となり数が増えすぎ、森林被害が発生した。
- ・カワウの補食量増大に伴い、漁業被害が深刻化してきた。
- ・1970年代に減少したカワウだが、1980年代以降、個体数が増えてきている。
- 要因は明確になってはいない。人間側の営巣地の保護や水質改善などが関係している可能性がある。
- ・カワウの体内には、現在でも水中の有害物質の蓄積度が高く、個体数が再び減少する可能性もある。

○参考となるホームページ

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 (<http://www.pref.shiga.jp/d/shizenhogo/>)

滋賀県農政水産部水産課 (<http://www.pref.shiga.jp/g/suisan/>)

日本野鳥の会 (<http://www.wbsj.org/>)